

資料6

研究課題	6 粒径別大気粒子状物質の環境リスク評価と大気環境情報の可視化に関する研究 (24-25)
研究目的・背景	<p>本研究の当初の目的は、「県内各所、特に沿岸被災地におけるPM2.5をはじめとした大気中粒子状物質の、特に粒径別の濃度とその成分の特定、更に放射性物質の濃度を測定し、地域規模、生活環境において県民に与える影響（健康リスク）を可視化し、情報発信すること」であった。しかし、平成24年度末に主担当者が異動となり計画遂行が困難となったことから、目的を「成分分析を行い、県内で観測されるPM2.5の組成を解明する」及び「被災地における健康リスク要素を調査し、安全・安心を確認する」と変えて研究を継続した。</p>
研究結果	<p>本調査の結果、県内で観測されるPM2.5の主要因は広域汚染であり、一部の地域汚染が上乗せされていることが分かった。被災地におけるPM2.5、PM10、SPM中の放射性セシウム及び大気中アスベストの濃度を調査した結果はいずれも基準値未満の水準であり、これらの調査項目については安全・安心が確認されたと思料された。また、これらの結果については、県ホームページで測定結果の表及びグラフ等で県民に広く情報提供している。</p> <p>今後の方針としては、本研究の調査対象としたPM2.5について、県民の関心も高く県環境行政担当課からの強い要請もあることから、その固定発生源や移動発生源の排出状況の把握にかかる成分分析調査を重点的に取り組む予定である。</p>
評価結果	<p>○総合評価 A(0人)・B(4人)・C(2人)・D(0人)</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PMS、PM2.5など大気環境のリスクについて様々な角度から調査、考察を行っており、結果として評価できる。ただし、目的として可視化という部分まで進めることができなくなってしまったことから、評価をBとした。 ・海外からのPM2.5のモニタリングも重要であり情報発信も必要である。研究の発展が望まれる。 ・研究員の異動で一部変更があったが、放射性Csやアスベスト、PM2.5等の県民の関心の高い物質に係る目標は達成したと判断される。 ・被災地における大気環境の状況を明らかにした点は評価できる。 ・PM2.5をはじめとする大気物質については県内多地点での常時観測が求められるが、担当者異動により期間を切り上げて、今回事後評価となったものである。興味深いデータも計測されており、観測の継続性をセンターにお願いしたい。 ・一般の関心も高い重要な課題であり、成果が有効に利用されている点も評価できる。担当者が異動して当初の目標を変更したとのことであるが、達成された成果は有益なものと評価できる。今後の課題として掲げているPM2.5の発生源に関する調査についても適切に取組み、県民・県行政の期待に応えていただきたい。
センターの対応方針	<p>① 完了 2 継続延期 3 新規課題化</p> <p>研究員の異動により、研究計画を一部変更したが、災地におけるアスベストや放射能などを含む大気汚染状況は、今回の研究で異常がないことが明らかになるなど、一定の成果があったものと考えている。</p> <p>今後は、県民にも関心が高いPM2.5の発生源対策に資するため、PM2.5の成分分析を中心に、全国の環境研とも連携のうえ調査研究を進めていく。</p>